

鶏の改良増殖をめぐる情勢

令和7年1月

農林水産省畜産局畜産振興課

【目次】

I	需給と流通をめぐる情勢	
1	鶏卵需給等の動向	
(1)	需給（消費、供給）	… 1
(2)	価格	… 3
2	鶏肉需給等の動向	
(1)	需給（消費、供給、輸入）	… 4
(2)	価格	… 7
3	消費者ニーズ	… 8
4	経営の動向	
(1)	生産構造（飼養戸数、飼養羽数）	… 9
(2)	生産コスト	… 11
5	地鶏の動向	
(1)	種鶏の供給	… 13
(2)	地鶏等の生産状況	… 14
6	改良の推移	
(1)	卵用鶏	… 15
(2)	肉用鶏	… 16
II	鶏をめぐる情勢	
1	全国の都道府県改良地鶏等	… 18
2	PGCs技術の活用	… 19
3	持続可能性に配慮した 鶏卵・鶏肉JASの概要	… 20
4	農林水産分野における カーボン・クレジットの推進	… 21
5	鶏糞の利活用状況	… 22
6	抗菌性剤の使用低減に向けた 取り組み	… 23
7	鳥インフルエンザのリスクヘッジ	… 24
8	アニマルウェルフェアの 考え方への対応	… 25
III	参考資料	
1	流通体系（鶏卵、鶏肉）	… 26
2	農業産出額	… 28
3	配合飼料をめぐる情勢 （畜産農家の配合飼料購入価格）	… 29
4	鶏改良の変遷	… 30
5	国産鶏の改良体制（採卵鶏、肉用鶏）	… 31
6	遺伝子情報等の利用促進 （採卵鶏、肉用鶏）	… 35

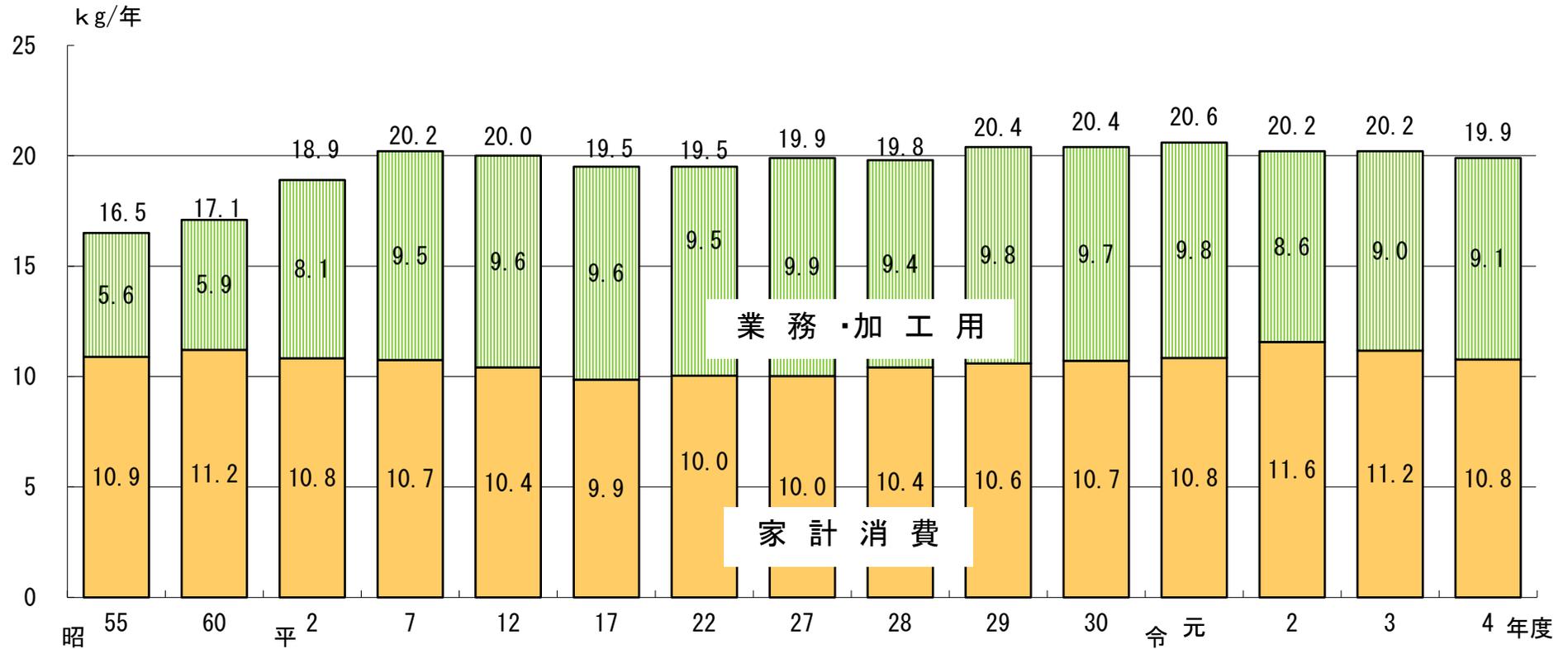
I 需給と流通をめぐる情勢

1 鶏卵需給等の動向

(1) 需給（消費）

- ・ 鶏卵の1人当たり年間消費量は約20kg（Mサイズで330個相当）程度と、近年横ばいで推移。
- ・ 家計消費量と業務加工用の割合は、ほぼ1：1。

○ 鶏卵消費量の推移

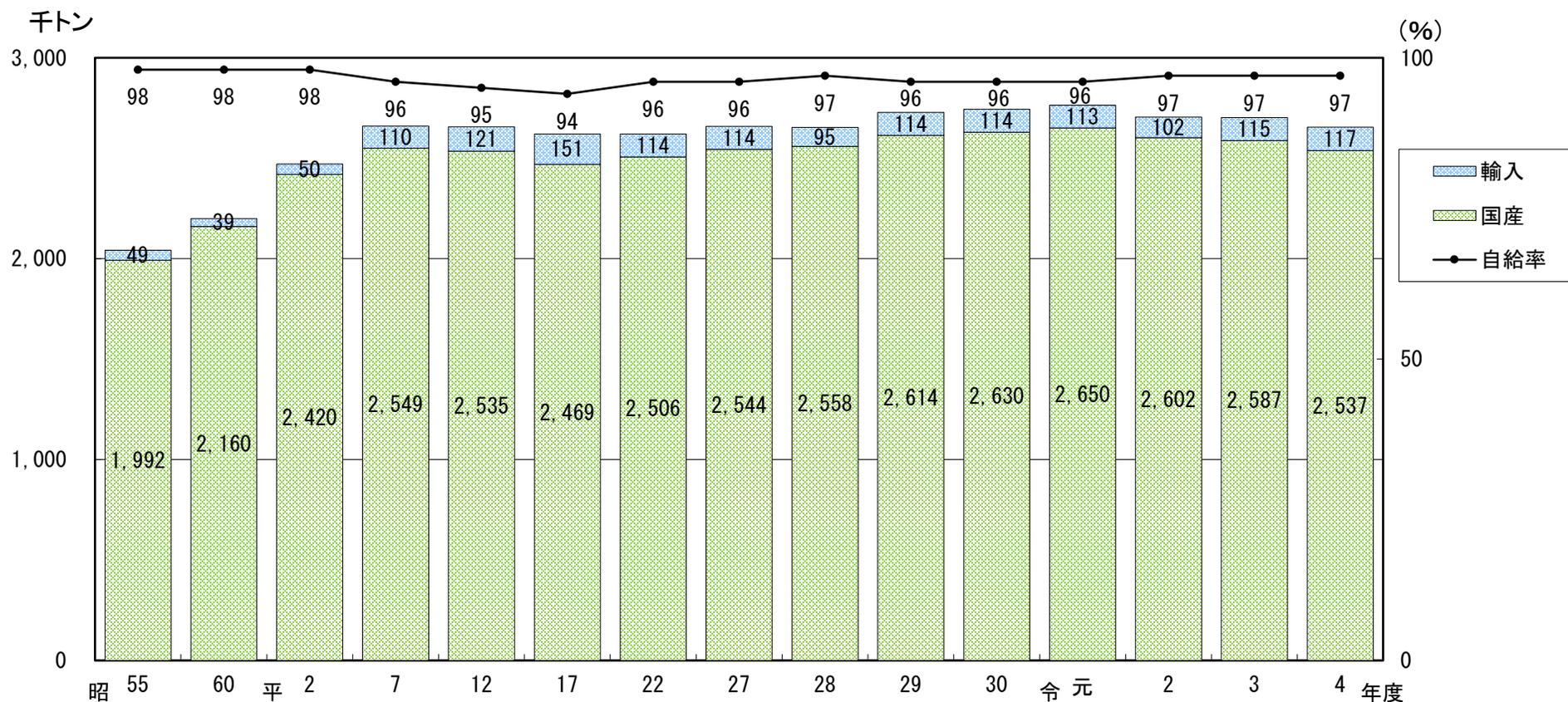


資料：総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」
注：令和4年度は概算値

(1) 需給 (供給)

- ・ 鶏卵の需要は、近年横ばいで推移。自給率は97%（令和4年度）。
- ・ 輸入は需要量の約4%で推移。その約9割は加工原料用の粉卵が占める。

○ 鶏卵の種類別供給量と自給率



資料：農林水産省「食料需給表」

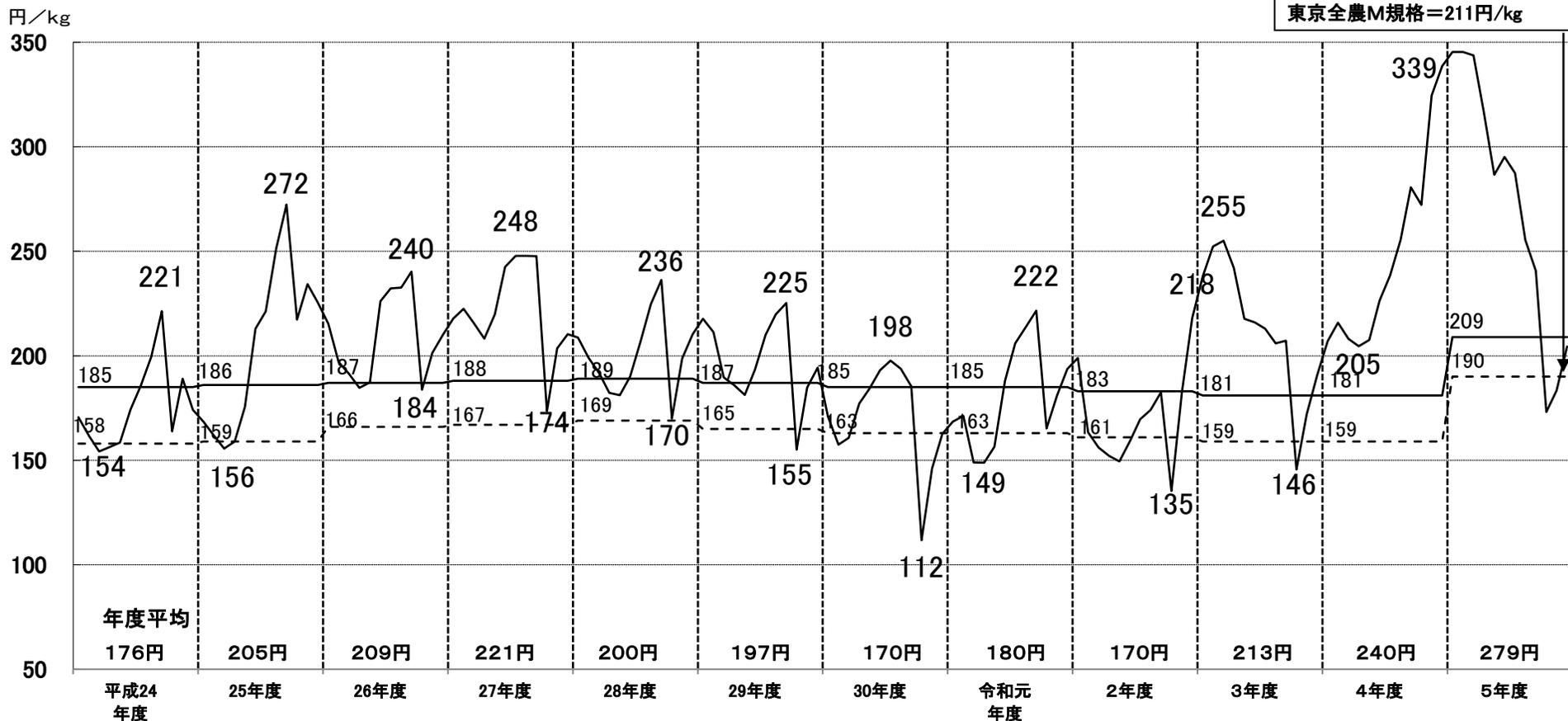
注1：令和4年度は概算値。

注2：自給率＝国内生産量／国内消費仕向量（＝国内生産量＋輸入量－輸出量）

(2) 価格

- ・ 鶏卵の卸売価格は、自給率が97%と高いこともあり、わずかな生産量の変動が大幅な価格変動につながりやすい傾向。
- ・ また、夏が安く、冬が高いという季節的な変動が存在。

○ 鶏卵卸売価格（標準取引価格）の推移



資料: JA全農調べ

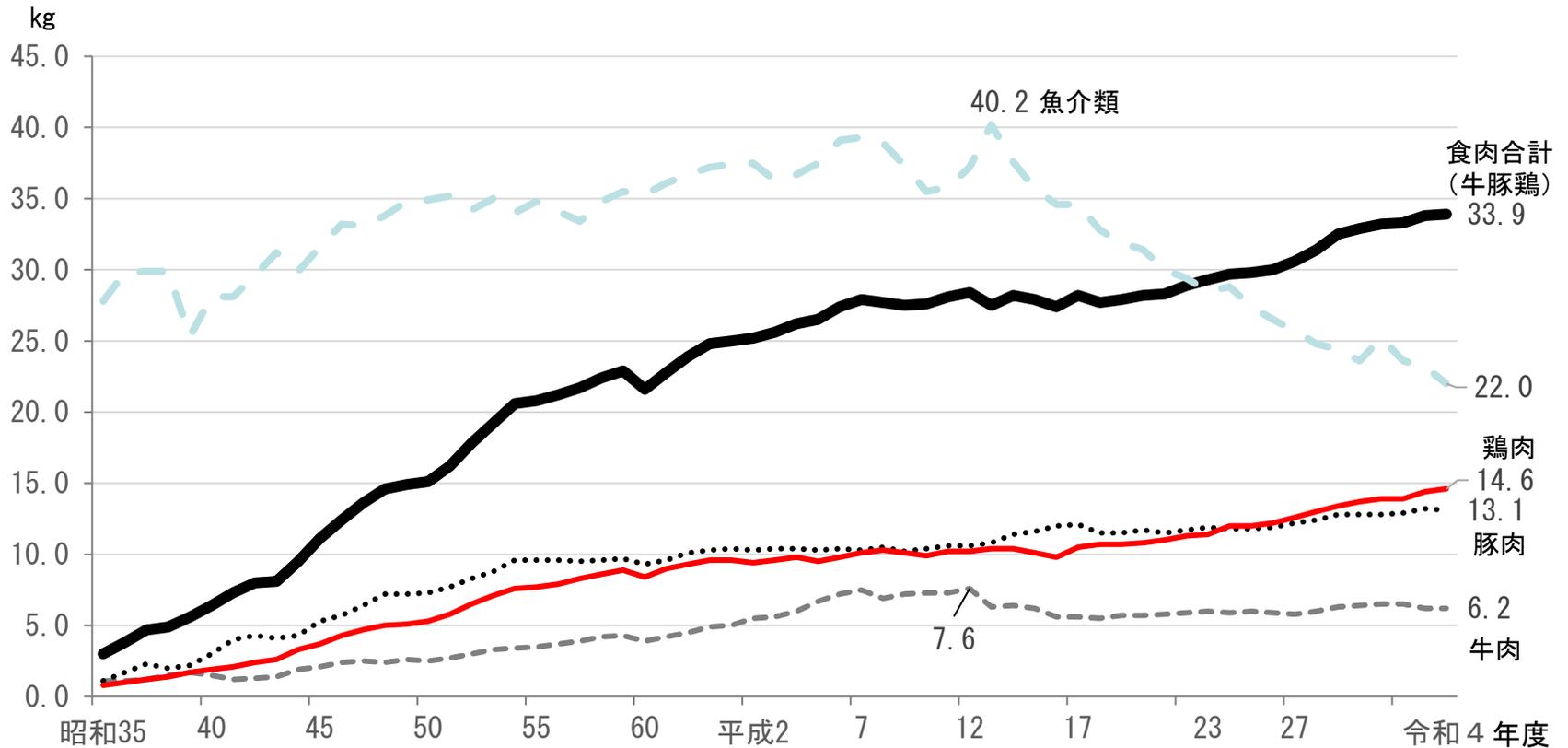
注: 標準取引価格は、東京・大阪の規格卵の加重平均である。

2 鶏肉需給等の動向

(1) 需給（消費）

- ・ 鶏肉の1人当たり年間消費量は14.6kgで豚肉を超え、食肉の中で最も多い消費量。
- ・ 牛肉消費が横ばいで推移する一方、豚肉とともに鶏肉消費量は増加傾向。

○食肉消費量の推移

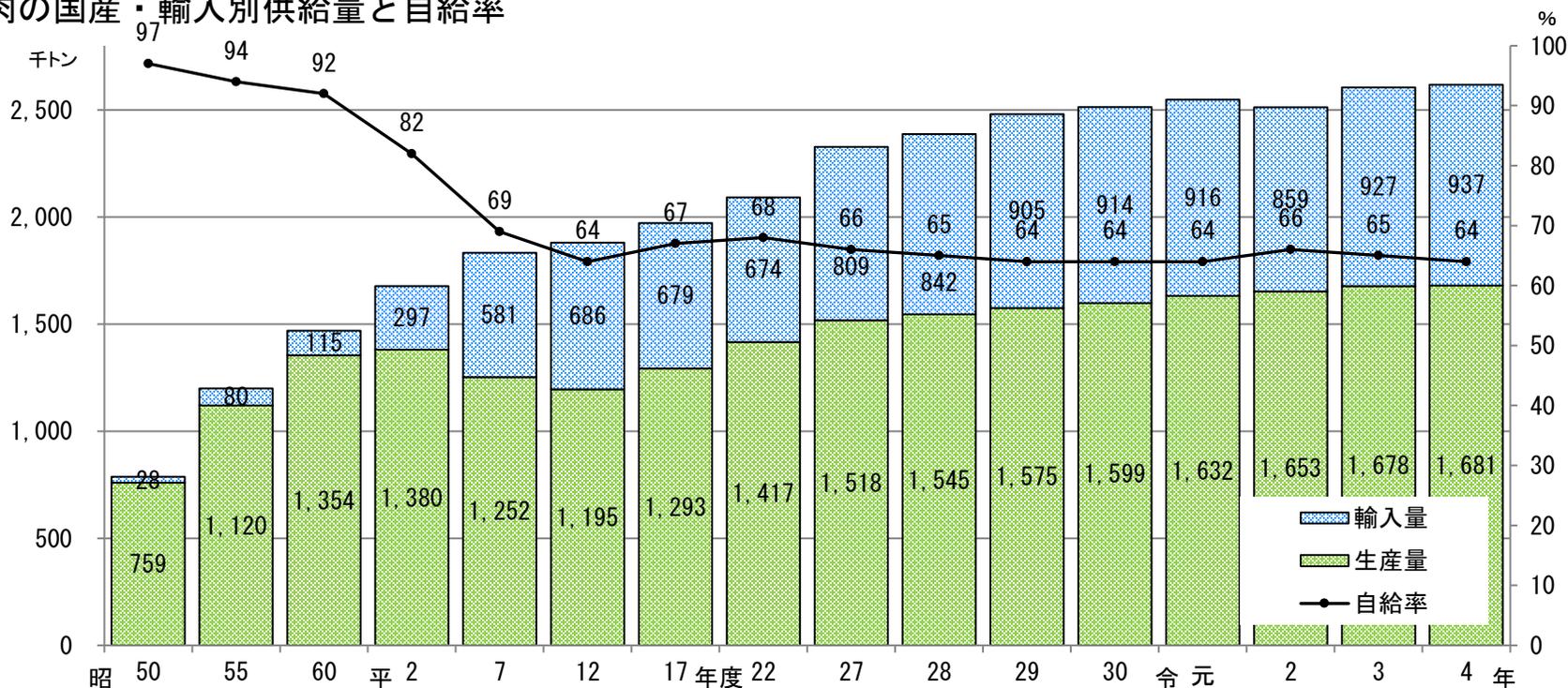


資料：農林水産省「食料需給表」
注：1人1年当たり供給純食料

(1) 需給 (供給)

- ・ 鶏肉の需要は、近年増加傾向で推移。
- ・ 生産量、輸入量とも増加傾向。自給率は64%でほぼ横ばい、家計消費量と外食消費量の割合はほぼ1 : 1。

○ 鶏肉の国産・輸入別供給量と自給率



資料: 農林水産省「食料需給表」

注1: 令和4年は概算値

注2: 平成21年度以降は年次ベース

注3: 自給率 = 国内生産量 / 国内消費仕向量 (= 国内生産量 + 輸入量 - 輸出品)

○ 鶏肉の用途別供給割合

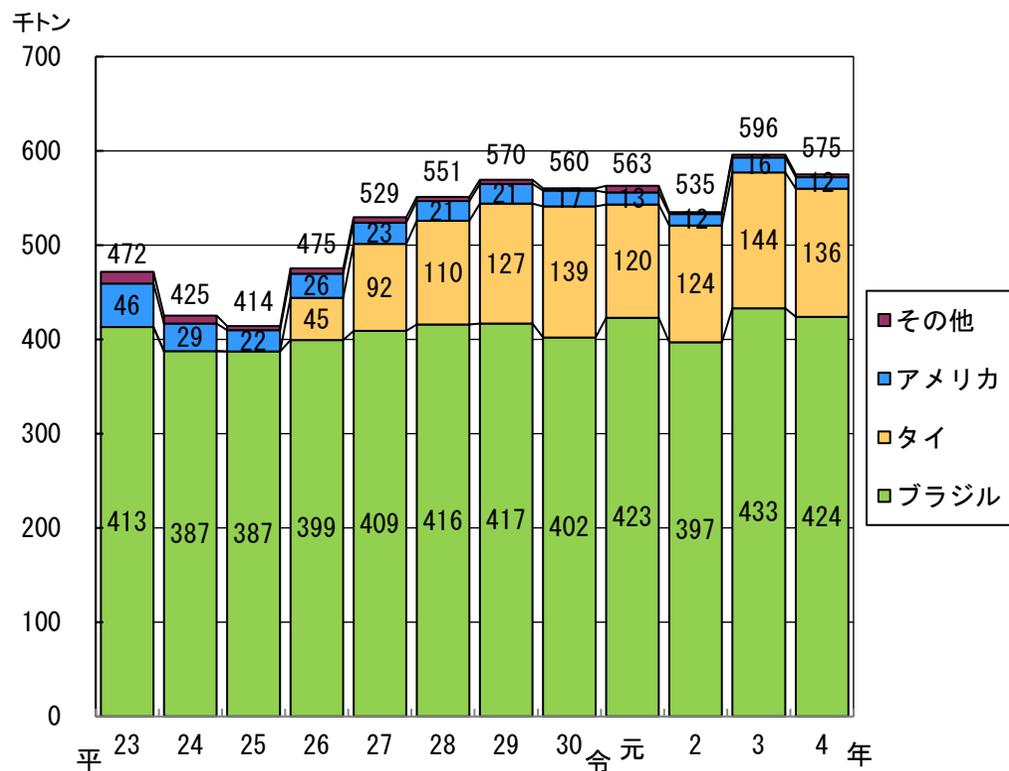


資料: 農林水産省「食肉の消費構成割合」

(1) 需給（輸入）

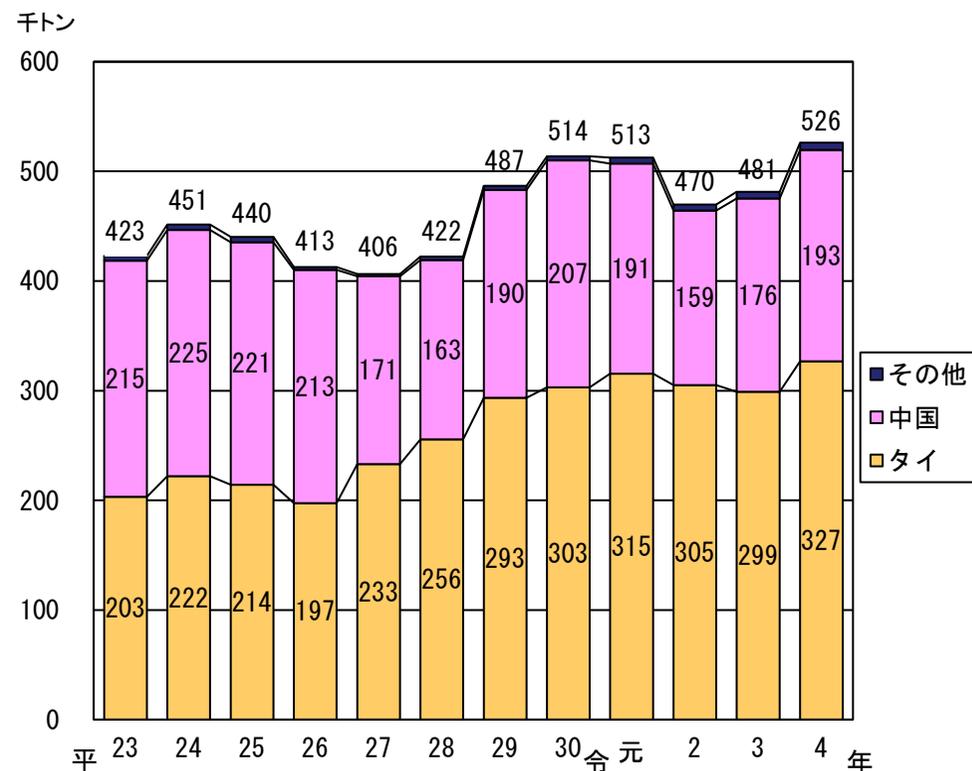
- 令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要が減退したことから、輸入量は前年を下回ったが、令和3年は需要が回復し、前年を上回った。
- 令和4年は、前年のブラジルからの輸入量が多かったこと及び米国での鳥インフルエンザの発生の影響で、輸入量が減少した。
- 鶏肉調製品の輸入量は、タイ及び中国からの輸入でほぼ全量を占めている。

○ 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

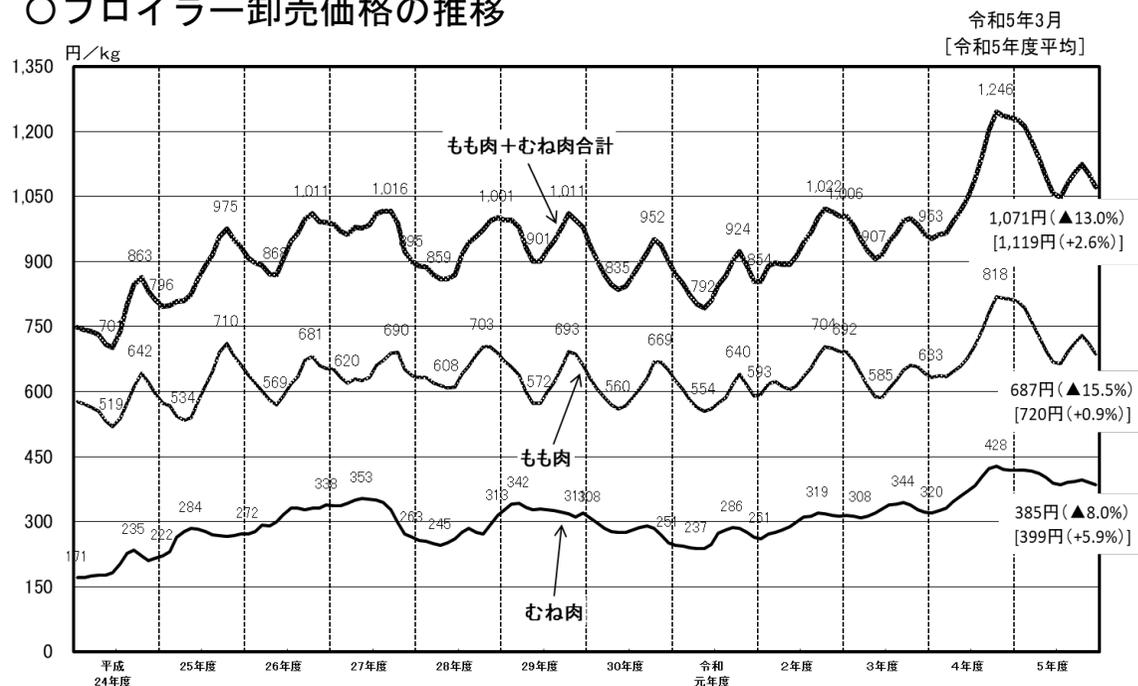
○ 鶏肉調製品輸入量の推移



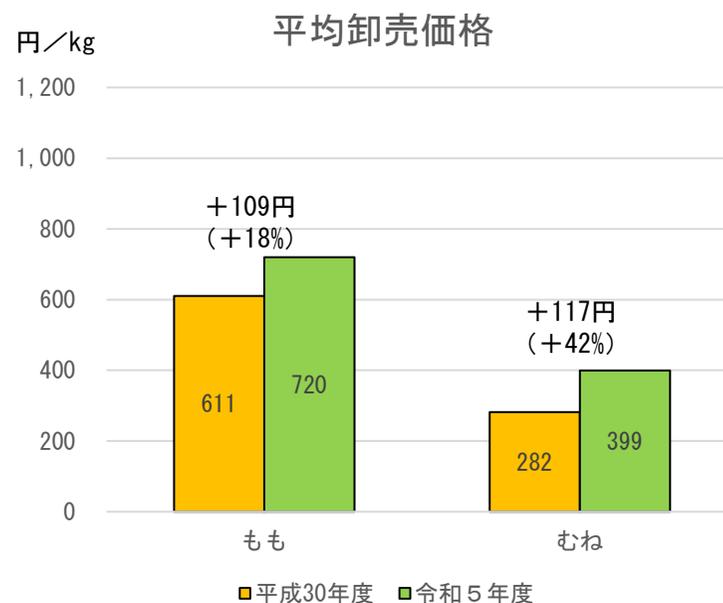
(2) 価格

- もも肉価格は、夏場の不需要期に向けて価格が低下し、年末の需要期に向けて価格が上昇する傾向がある。
- 近年の生産拡大等を背景に平成30年度以降前年を下回る傾向で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による「巣ごもり需要」の高まりから、需要が好調となり、価格は上昇した。
- 令和5年度も堅調な需要から、例年を上回る水準で推移。
- 近年、低価格志向・健康志向の高まりから、もも肉に比べむね肉の価格上昇率が高い。

○ブロイラー卸売価格の推移



○ブロイラー平均卸売価格の比較



資料：農林水産省「食鳥市況情報（東京）」

注1：もも肉+むね肉合計は、もも肉1kg卸売価格とむね肉1kg卸売価格の単純合計

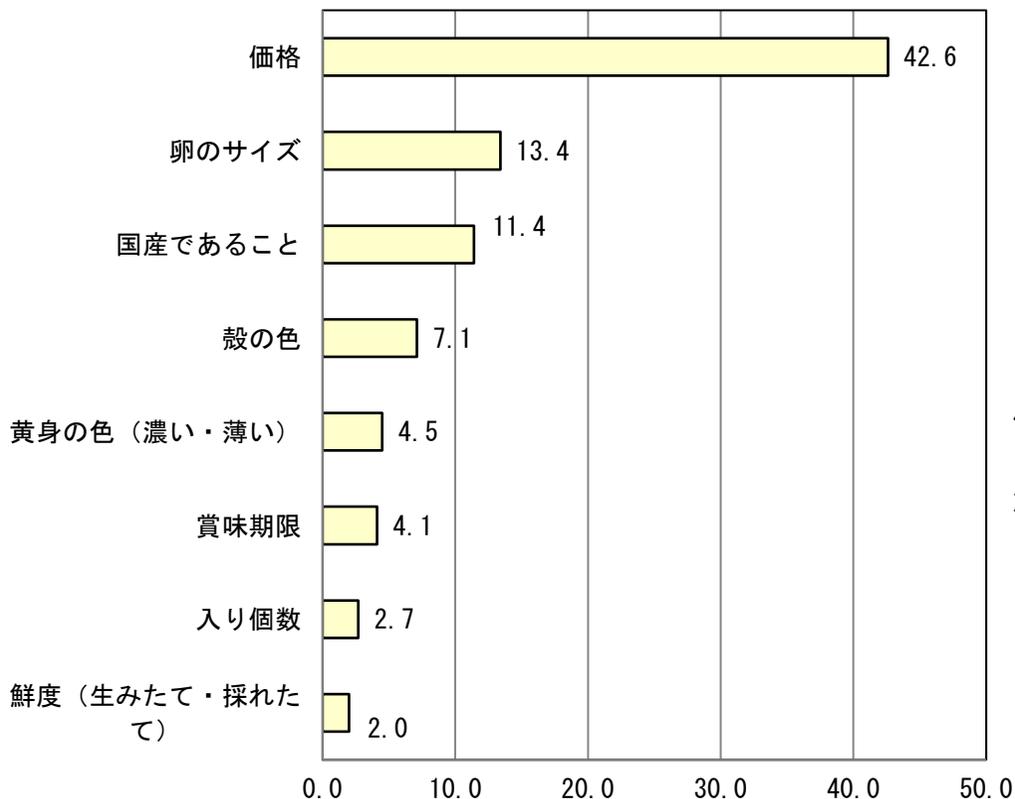
注2：()内は前年同月騰落率

資料：農林水産省「食鳥市況情報（東京）」

3 消費者ニーズ

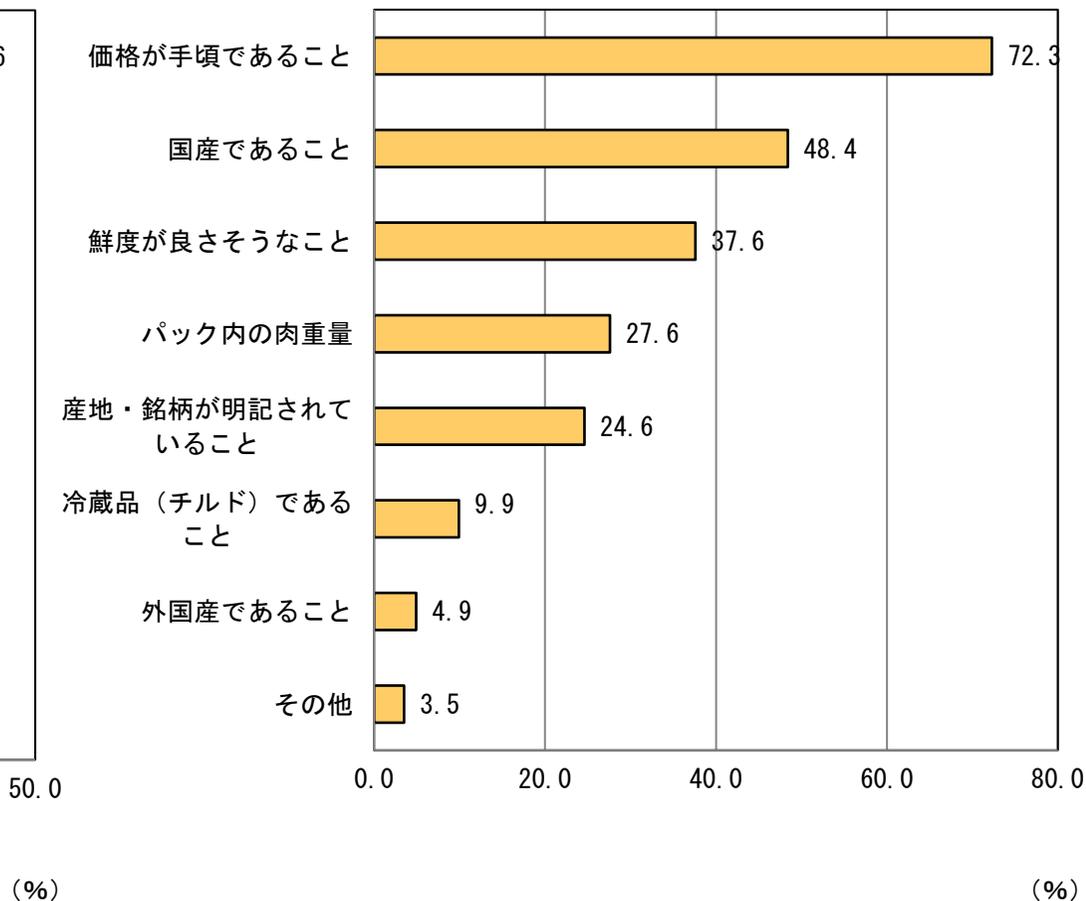
- ・ 鶏卵については、「価格」、「卵のサイズ」、「国産であること」などが購入の際の主な選定基準。
- ・ 鶏肉については、「国産であること」、「価格の手頃さ」、「鮮度の良さ」などが購入の際の主な選定基準。

○ 鶏卵



資料：キューピー株式会社「たまご白書 2023」抜粋
(複数回答) (令和5年8月時点)

○ 鶏肉



資料：(公社)日本食肉消費総合センター「食肉に関する意識調査」抜粋
(複数回答) (令和5年10月時点)

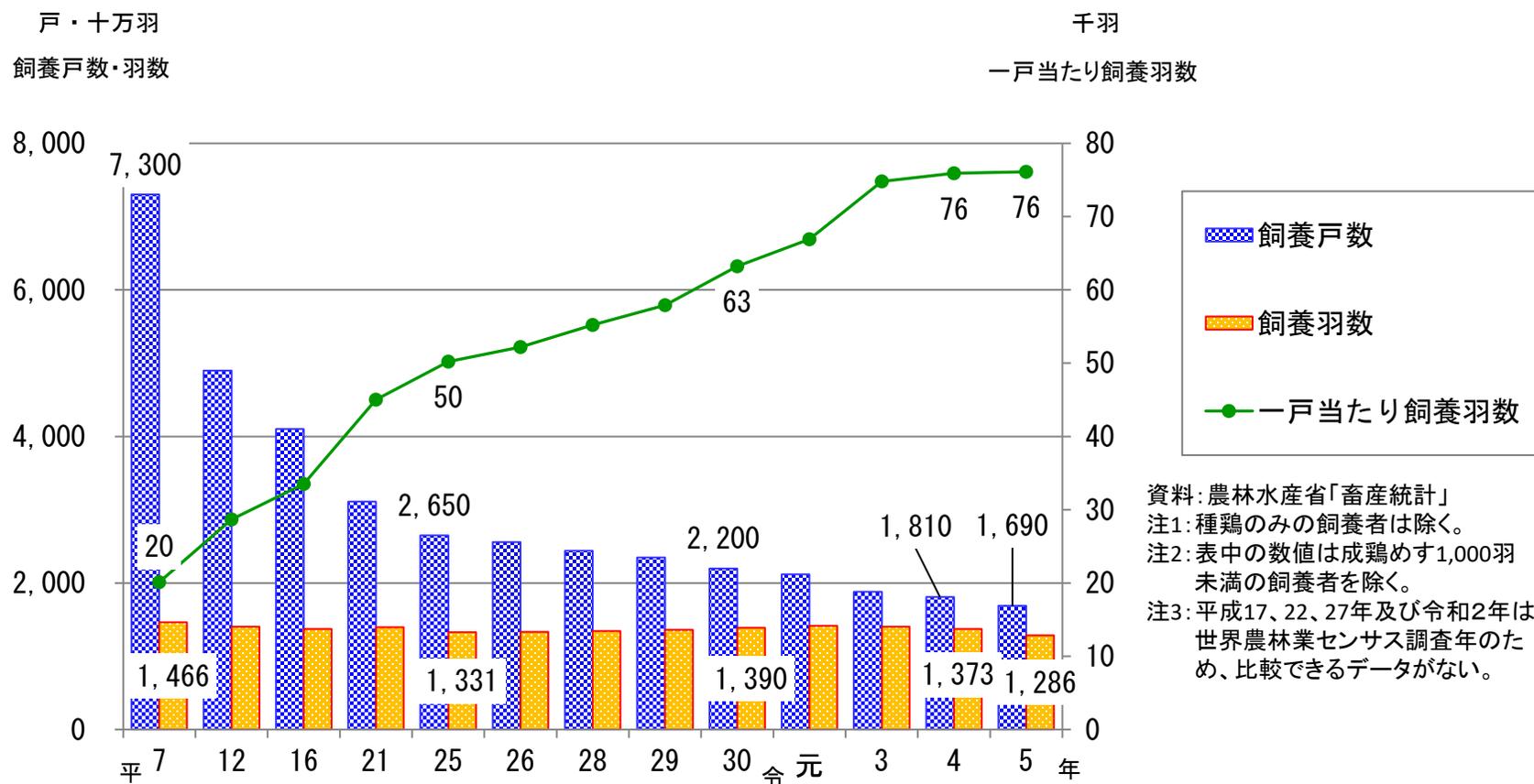
4 経営の動向

(1) 生産構造（飼養戸数、飼養羽数）

① 採卵鶏

- ・ 飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率4～6%の割合で減少。
- ・ 成鶏めす飼養羽数は、26年以降は増加傾向で推移していたが、令和4年以降減少傾向で推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移していたが、令和4年以降横ばい。

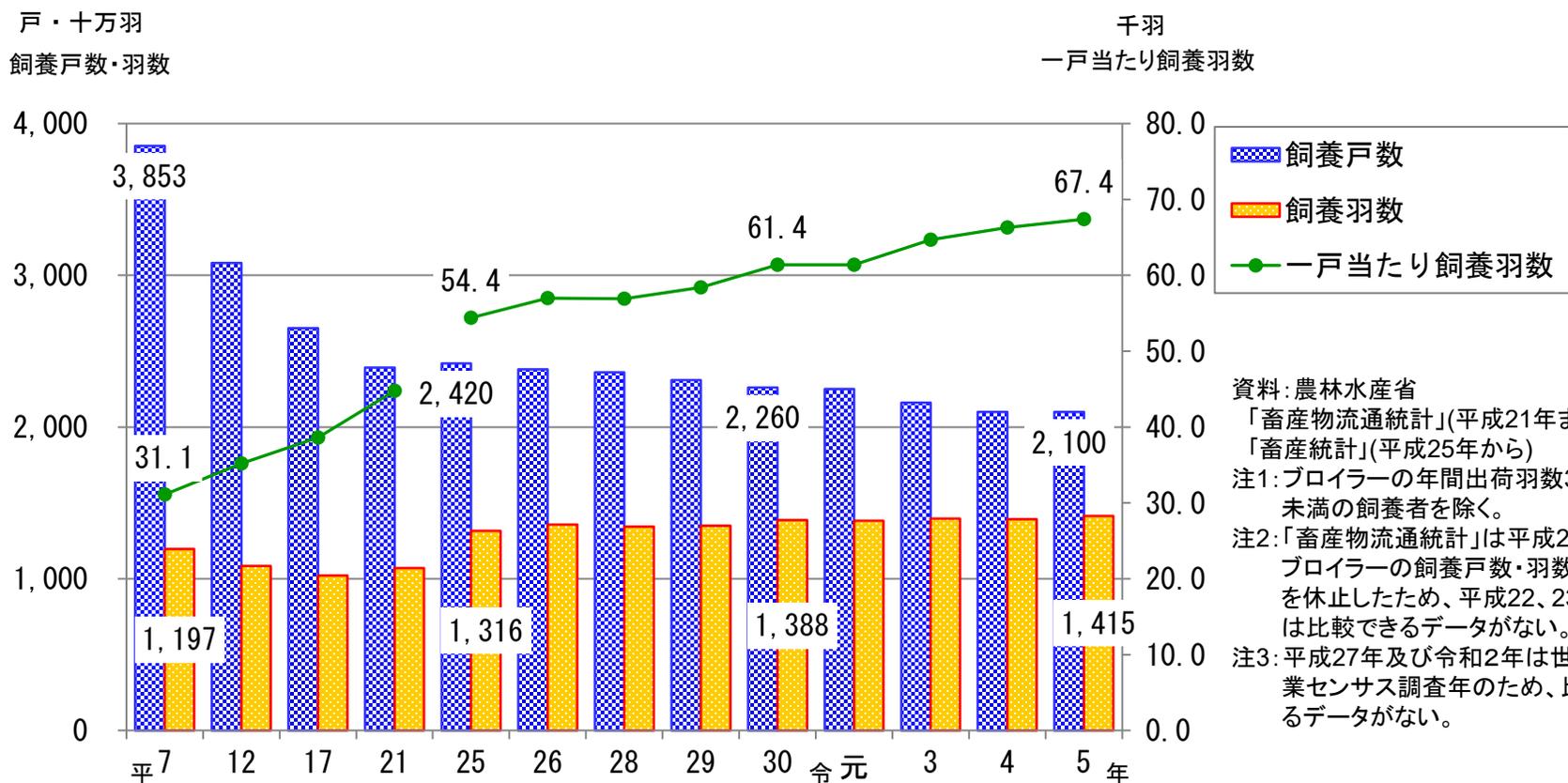
○ 採卵鶏の飼養戸数・飼養羽数の推移



② 肉用鶏（ブロイラー）

- ・ 飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率1～2%前後の割合で減少。
- ・ 飼養羽数は、近年、概ね横ばいで推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移。

○ 肉用鶏（ブロイラー）の飼養戸数・飼養羽数の推移



資料：農林水産省
「畜産物流通統計」(平成21年まで)、
「畜産統計」(平成25年から)
注1:ブロイラーの年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く。
注2:「畜産物流通統計」は平成21年以降ブロイラーの飼養戸数・羽数の調査を休止したため、平成22、23、24年は比較できるデータがない。
注3:平成27年及び令和2年は世界農林業センサス調査年のため、比較できるデータがない。

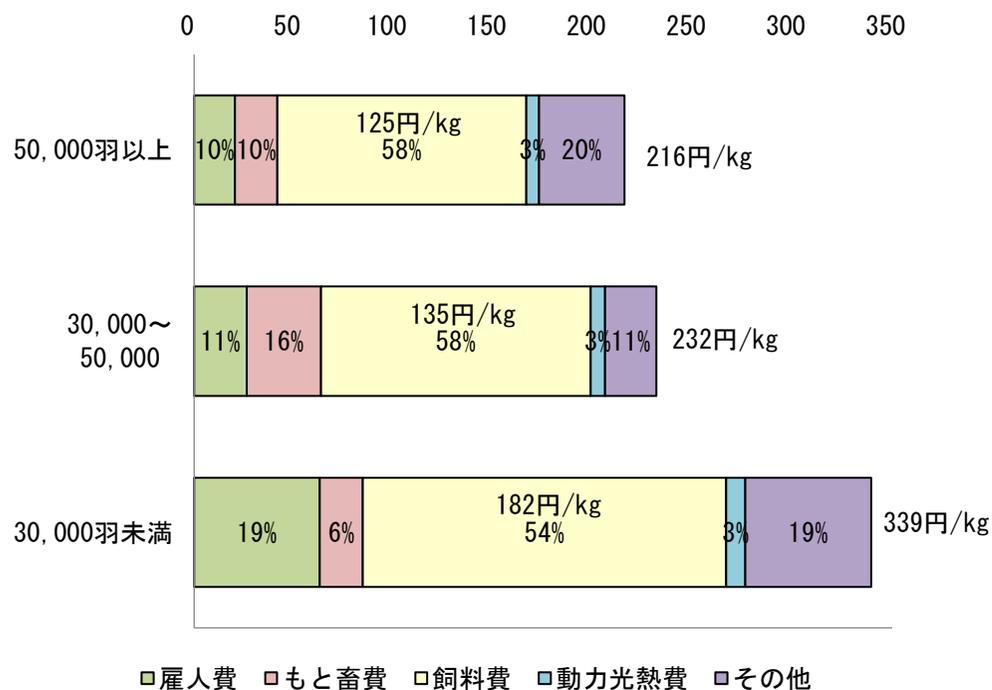
(2) 生産コスト

① 採卵鶏

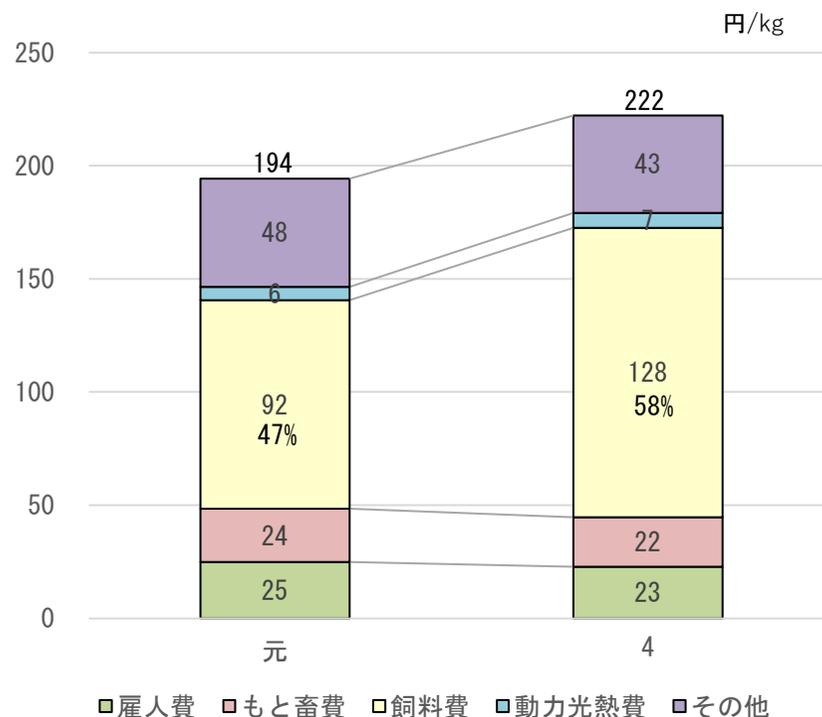
- ・ 採卵養鶏経営における農業経営費のうち、飼料費が54～58%を占めている。
- ・ 令和4年は、令和元年に比べ飼料費が大幅に増加した。

○ 採卵養鶏経営の農業経営費の割合

(鶏卵生産量1kg当たり)



○ 農業経営費の推移



資料：農林水産省「農業経営統計調査」（営農類型別経営統計（全農業経営体））

注1：「農薬衛生費」、「地代・賃借料」、「利子割引料（負債利子）」及び「減価償却料（建物、機械、車両等）」は「その他」に計上。

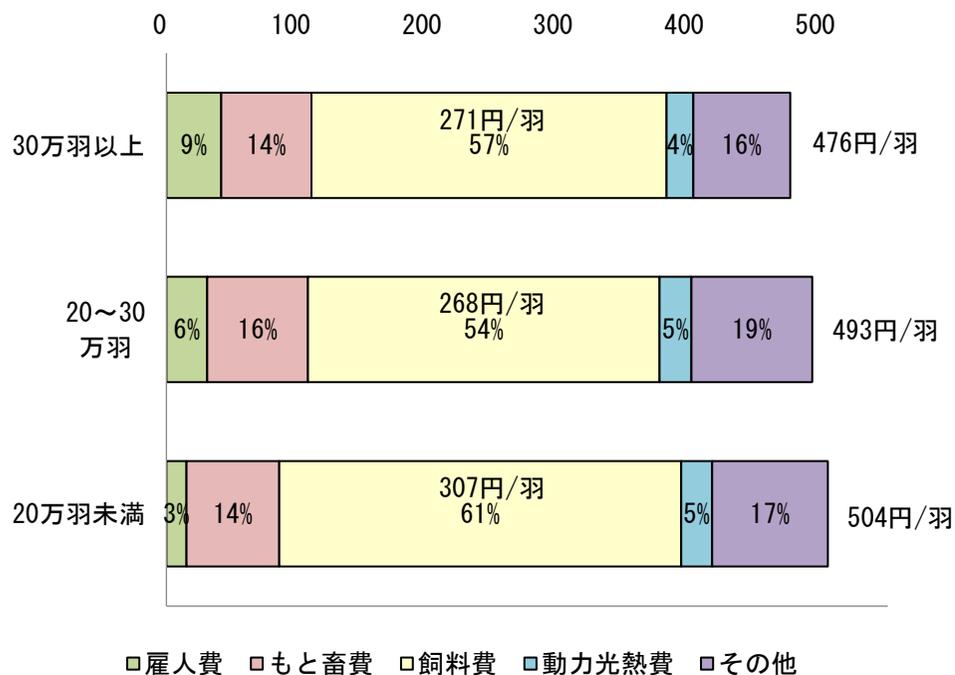
注2：農業経営費とは、1年間の農業経営に要した一切の経費。なお、個人経営における農業専従者に対する給与は含まない。

② 肉用鶏（ブロイラー）

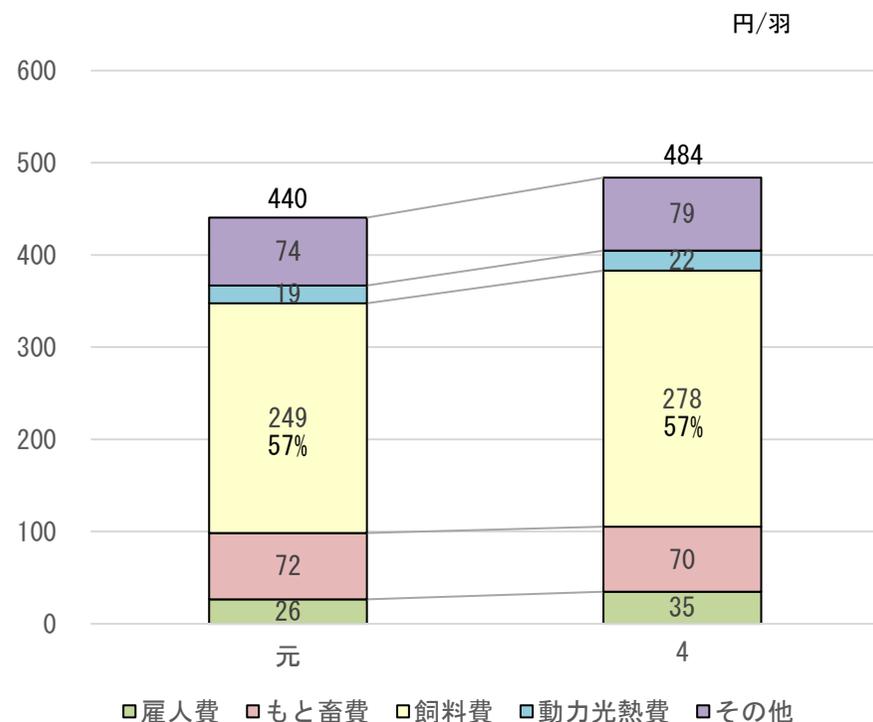
- ・ ブロイラー養鶏経営においても、飼料費が54～61%を占めている。
- ・ 令和4年は、令和元年に比べもと畜費以外の農業経営費が増加した。

○ ブロイラー養鶏経営の農業経営費の割合

（販売羽数1羽当たり）



○ 農業経営費の推移



資料：農林水産省「農業経営統計調査」（営農類型別経営統計（全農業経営体））

注1：「農薬衛生費」、「地代・賃借料」、「利子割引料（負債利子）」及び「減価償却料（建物、機械、車両等）」は「その他」に計上。

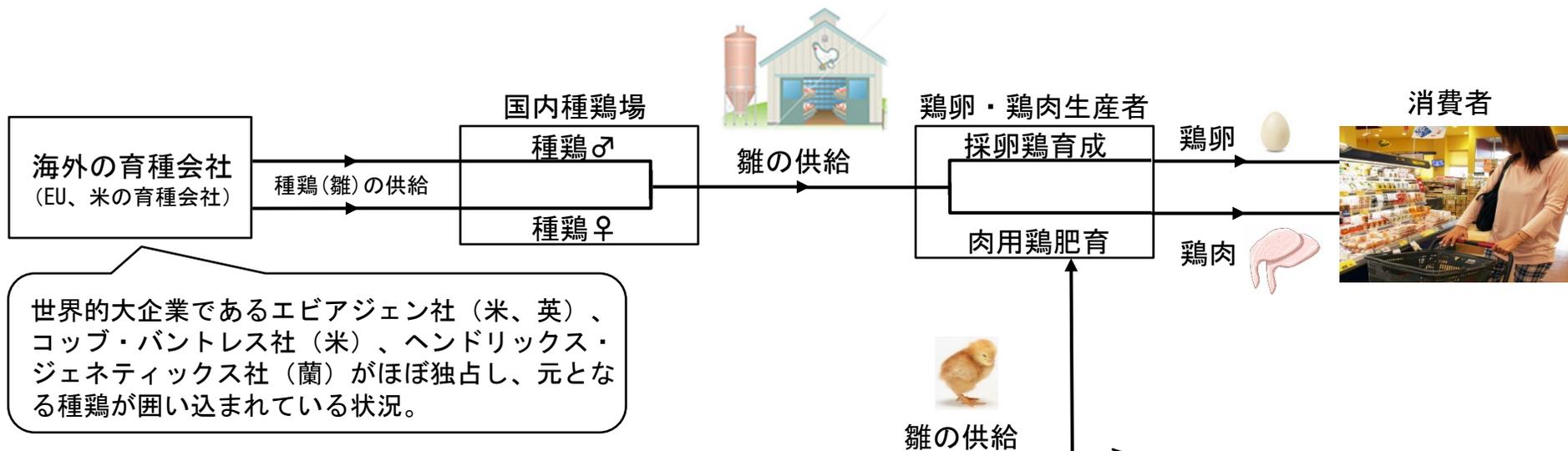
注2：農業経営費とは、1年間の農業経営に要した一切の経費。なお、個人経営における農業専従者に対する給与は含まない。

5 地鶏の動向

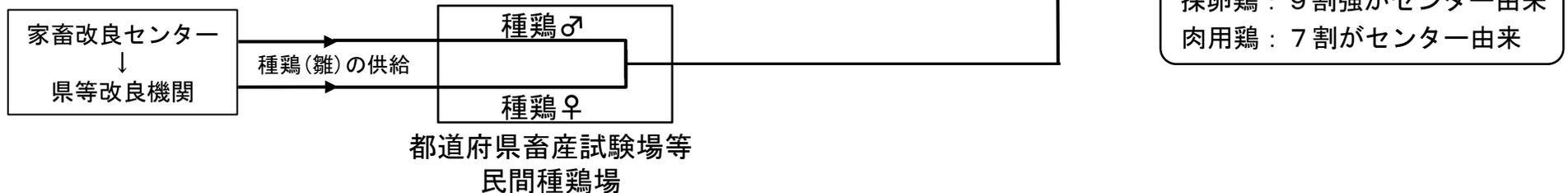
(1) 種鶏の供給

- 我が国の鶏卵や鶏肉については、ほとんどがEUや北米から輸入される外国産種鶏を用いて生産されている。
- 他方、一部について、特色ある鶏卵、鶏肉を好む消費者ニーズに対応するため、(独)家畜改良センターや都道府県等が保有する国産種鶏を基に、地鶏等が作出されている。
- 輸入停止や国内種鶏場からの供給停止リスクに関する対策が必要ではないか。

○ コマーシャル鶏の流れ (海外育種会社由来鶏シェア：採卵鶏96%、肉用鶏98%)



○ 地鶏等の流れ (家畜改良センター又は都道府県等育種改良機関由来鶏シェア：採卵鶏3～4%、肉用鶏1～2%)



(2) 地鶏等の生産状況

- ・ 国内で地鶏（一部銘柄鶏を含む）の増殖を行っているのは、38都道府県。
- ・ （独）家畜改良センターは、33都道府県（42銘柄）、2民間（3銘柄）に対して種鶏を供給。

○地鶏等の定義

事項	基準
地鶏	在来種（注）由来血液百分率が50%以上のものであって、出生の証明（在来種からの系譜、在来種由来血液百分率及びふ化日の証明をいう。）ができるものを素びなとする。
銘柄鶏	地鶏に比べ増体に優れた肉用種。通常の飼育方法と異なり、飼料内容等に工夫を加えたもの。
ブロイラー	短期間で成鶏に達するように育種改良された肉用鶏。

注：在来種とは、明治時代までに国内で成立し、又は導入され定着した以下に掲げる鶏の品種をいう。
 会津地鶏、伊勢地鶏、岩手地鶏、インギー鶏、烏骨鶏、鶉矮鶏、ウタイチェーン、エーコク、横斑プリマスロック、沖縄髯地鶏、尾長鶏、河内奴鶏、雁鶏、岐阜地鶏、熊本種、久連子鶏、黒柏鶏、コーチン、声良鶏、薩摩鶏、佐渡髯鶏、地頭鶏、芝鶏、軍鶏、小国鶏、矮鶏、東天紅鶏、蜀鶏、土佐九斤、土佐地鶏、対馬地鶏、名古屋種、比内鶏、三河種、蓑曳矮鶏、蓑曳鶏、宮地鶏、ロードアイランドレッド

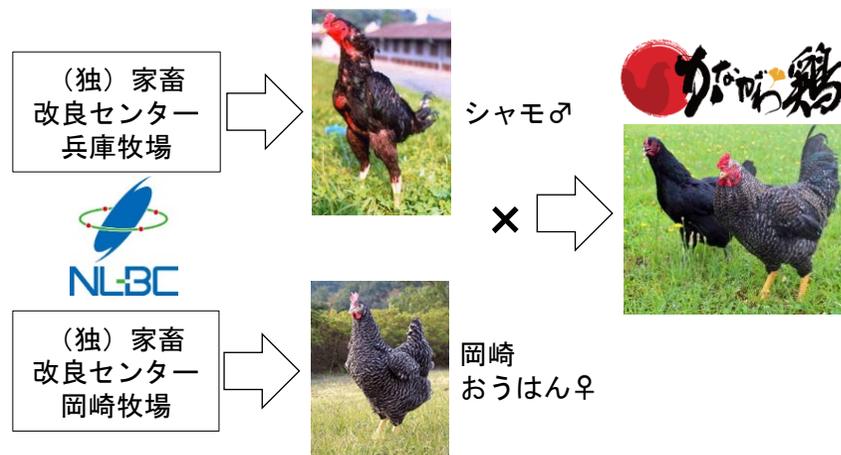
○地鶏等のうち（独）家畜改良センター系統由来のもの（令和4年度）

※（）内は3年度

区分	組織数	銘柄数	年間出荷羽数 (千羽)	年間出荷羽数 対前年比 (%)
都道府県	33 (35)	42 (41)	2,214 (2,077)	106.6
民間	2 (2)	3 (3)	73 (63)	115.9
合計	35 (37)	45 (44)	2,287 (2,140)	106.9

※はりま・たつのを加えた合計 5,626 (5,637)

○（独）家畜改良センター提供素材鶏の利用例（かながわ鶏：平成28年作出）

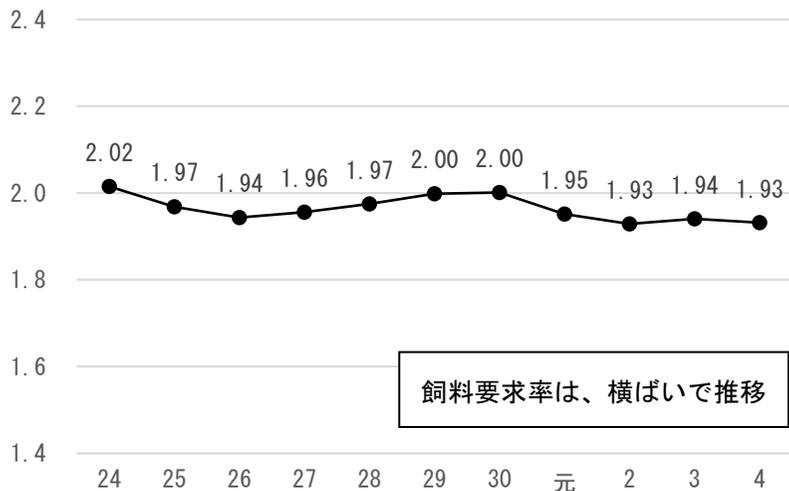


6 改良の推移

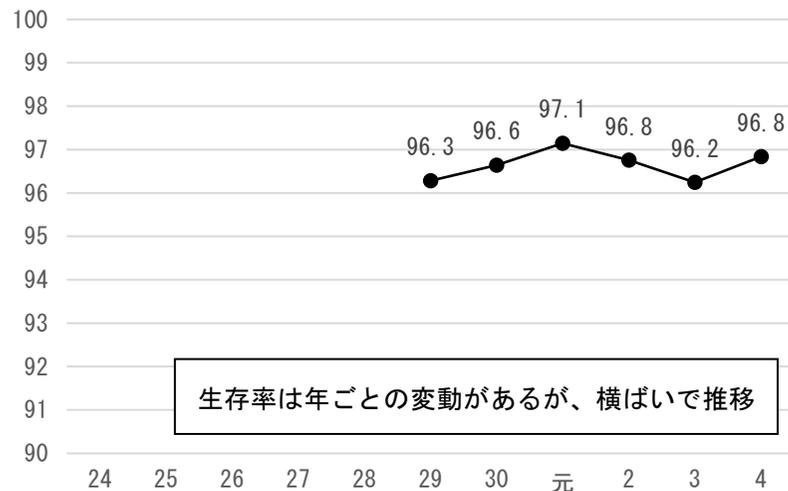
(1) 卵用鶏

- 卵用鶏のデータについては、民間フィールド（1社）における成績に基づき推計。

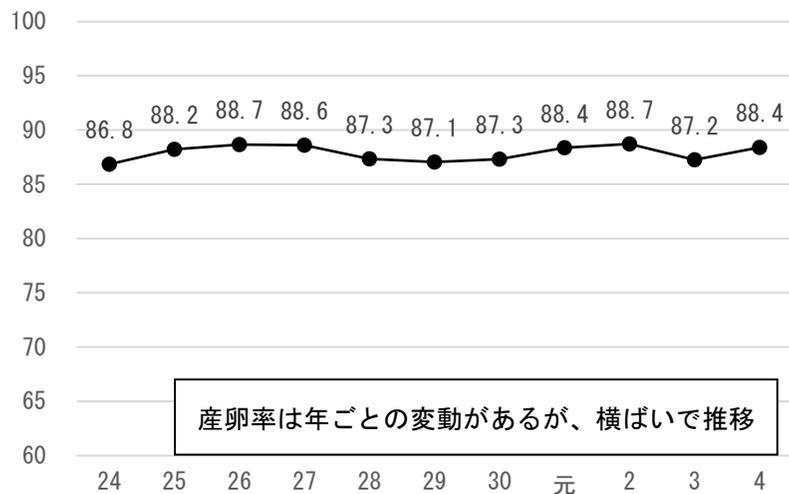
① 飼料要求率



③ 生存率



② 産卵率



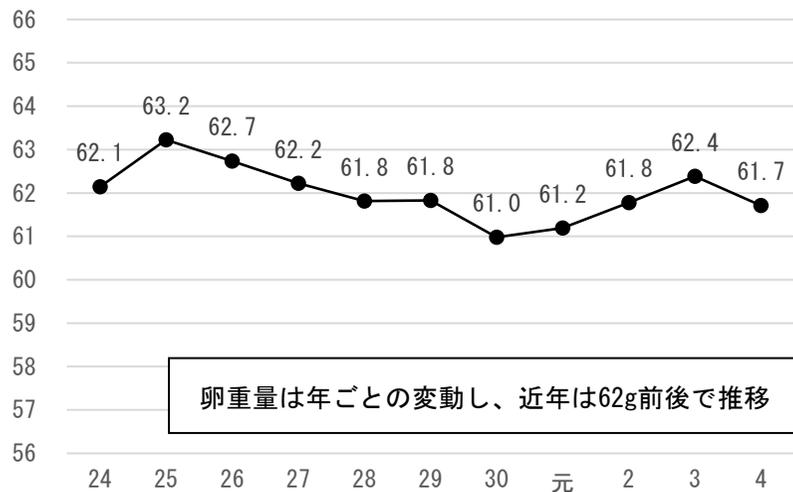
資料：畜産振興課調べ

$$\text{注：産卵率} = \frac{\text{50\%産卵日齢から1年間における鶏群の産卵個数}}{\text{50\%産卵日齢から1年間における鶏群の生存延べ羽数}} \times 100$$

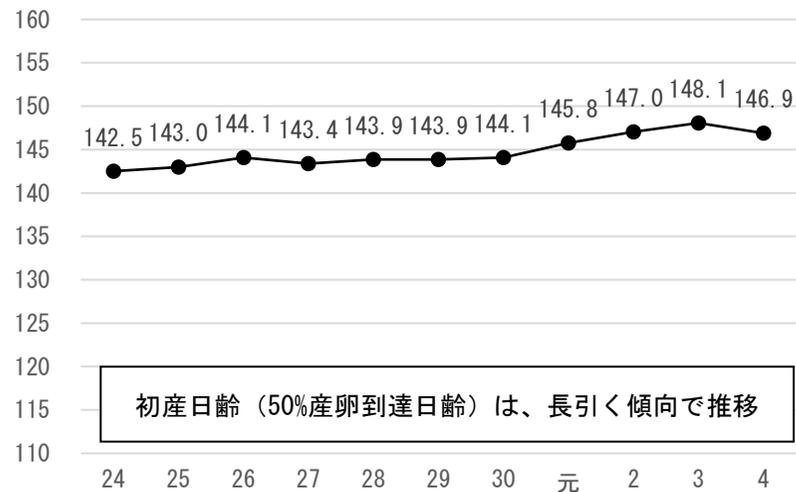
$$\text{飼料要求率} = \frac{\text{50\%産卵日齢から1年間における鶏群の飼料消費量}}{\text{50\%産卵日齢から1年間における鶏群の産卵重量}}$$

(1) 卵用鶏 (つづき)

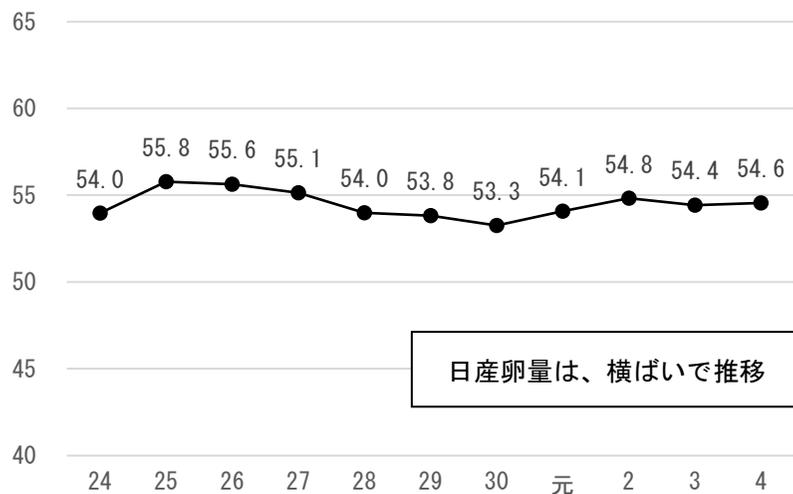
④卵重量



⑥初産日齢 (50%産卵到達日齢)



⑤日産卵量



資料：畜産振興課調べ

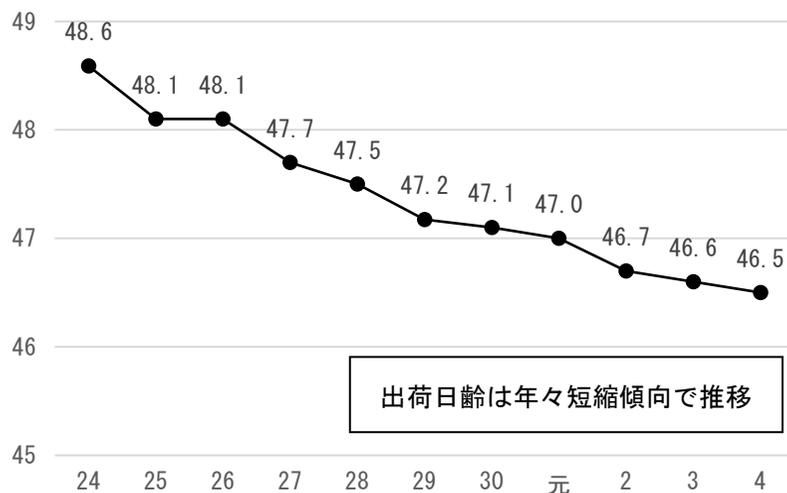
注：卵重量 = 50%産卵日齢から1年間における鶏群の平均産卵重量

日産卵量 = 卵重量 × 産卵率

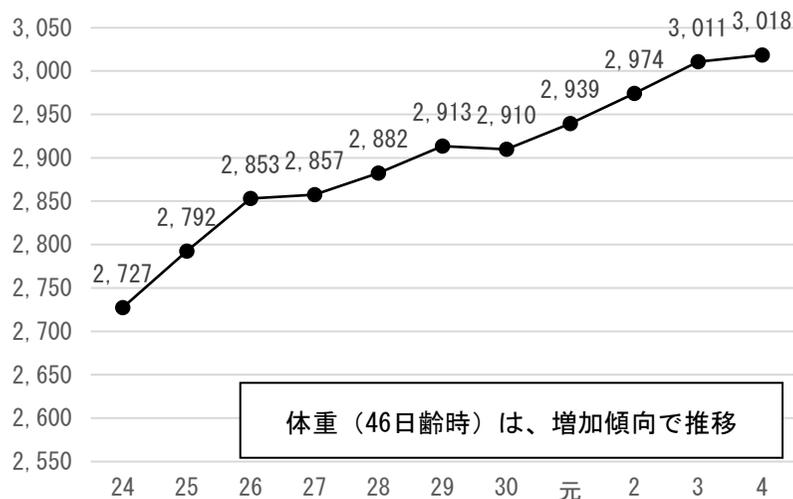
(2) 肉用鶏

- 肉用鶏のデータについては、民間フィールド（1社）における成績に基づき推計。

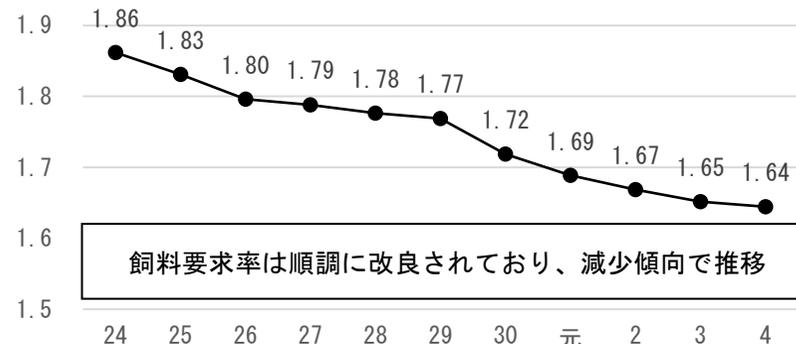
①出荷日齢（野外データ）



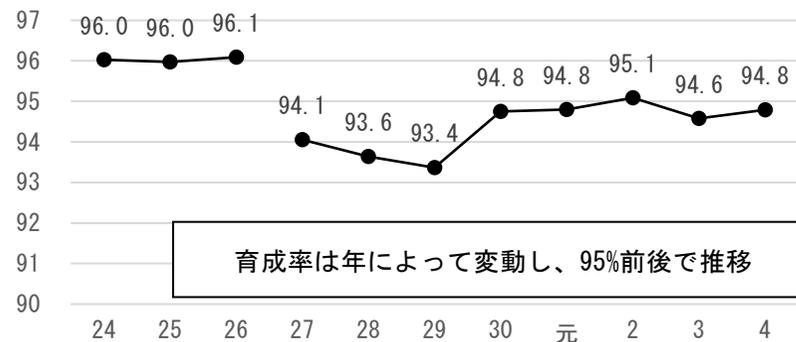
②体重（46日齢）



③飼料要求率（46日齢）



④育成率（46日齢）



資料：畜産振興課調べ

注1：体重＝46日齢時点における雄雌平均値

餌付けから46日齢時点までの飼料消費量

飼料要求率＝

鶏群の46日齢時点の体重

鶏群の46日齢時点羽数

育成率＝

鶏群の餌付け羽数

×100

注2：育成率は平成26年までは食鳥処理場での廃棄率を含む。
平成27年以降は食鳥処理場で廃棄された羽数を除く。